

「週単元テスト」Q&A②

文責：教頭（前花 和秀）

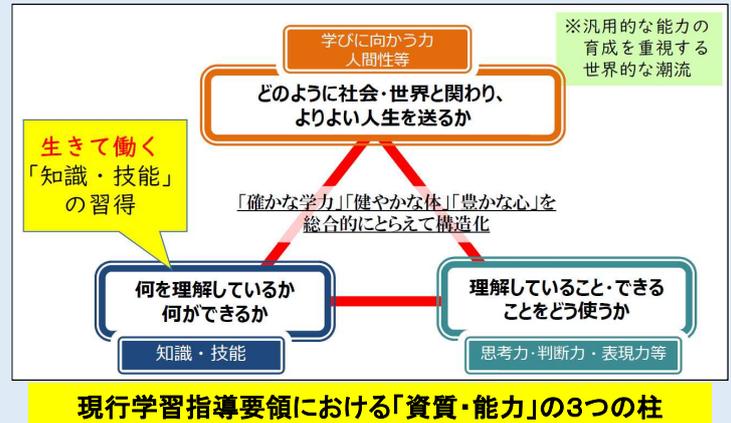
Q3. 単元テストに業者のテストを使用すると塾で同じ問題が使用される可能性があるのでは？

A3. ご指摘の通り、塾などは過去のデータを収集・分析して、学校のテストに備えてくるので業者テストの取扱いについては慎重に対応する必要が出てきそうです。

ただし、業者テストを活用する・自分たちで作問する、どちらにしても気をつけなくてはいけないことは「知識再生型」（いわゆる丸暗記）の問題にならないようにすることです。

現行学習指導要領においては「知識・技能」はいわゆる「ただ知っているだけ」ではなく「他の学習や生活の場面でも活用できる」ことが大切であると考えられています。

例えば、単語や重要語句などを問う問題だけではなく、実際に知識や技能を用いた場面で文章による説明をさせるなど「知識の概念的な理解」を問う問題を通して「生きて働く『知識・理解』」の定着を見取る工夫が必要かと考えられます。



もちろん「事実的な知識の習得」を問う問題も必要ですので「知識の概念的な理解」を問う問題とのバランスが重要かと考えます。具体的には、再テストを設定する場合に

- ①事実的な知識の習得 … 問題番号や表現方法を変えて再出題
 - ②知識の概念的な理解 … 別場面を設定し、文章による説明（回答）を求める出題
- という方法で評価を行うなどの工夫が考えられます。

学習塾などでしっかり学んで、知識を習得すること自体は悪いことではないと思います。ただし、その知識が「ただ覚えているだけの使えない知識」ではなく「生きて働く知識」であることが大切です。

今年度より県立高校入試でも「生きて働く知識」を問う問題が各教科10点ずつ設定される予定です。その出題傾向にも注目しながら、単元テストの在り方を考えると共に、授業改善についても取り組んでいくことが大切です。



Q4. 定期テストが全くないのは心配…。年に1度くらいはあった方が良いのでは？

A4. これまであった定期テストがなくなることについては、確かに不安もあると思います。ただし提案にある通り、定期テストを1回だけ設定するとなれば、その目的が必要となります。考えられる目的としては、年度末に学年の学習内容の定着を問うためのテストということになりそうですが、以下のようなメリット（○）・デメリット（●）が挙げられそうです。

- 学年末の学習内容の定着が図られる
- 高校入試等のシミュレーションができる
- 席次が出せるので進路資料として使える

- 全単元がある程度の終わる3月の実施 → 通知票作成などの慌ただしい時期
- 評価に反映させることが難しい時期
- 時間割の設定 ●作問と回答の負担

子供達のためにはあった方が良くとも思われますが、先生方の負担を考えると、働き方改革の視点からも、大きなメリットが見いだせない限り、定期テストの設定については慎重な検討が必要であると考えます。

定期テストの必要性や方法・時期等について、良いアイデアがないか、引き続き各教科会等でも話し合ってみてください。

